

1980. Summer.

信州大学山岳会 (S.A.C.)

夏山個人山行報告書

By No Photography In
Colour, And Few
Pictures.

Produced by S.A.C.

CONTENTS

(Page)

1. 南ア金山縦走 (北上P.)
2. 南ア金山縦走 (南下P.)
3. 北ア大日〜檜縦走
4. 飯豊朝日縦走
5. 赤石沢 (南ア南部)
6. 黒部川上ノ廊下
7. 幕岩大凹角ルート
8. 屏風雲稜, 東稜
9. 幕岩S字ルート
10. 千又沢〜木橋〜滝谷
11. 穂高継続登攀
12. 明神V峰
13. 1ルンピ
14. 穂高継続登攀
15. 穂高継続登攀
16. 滝谷
17. 前穂, IV峰 (月見山行)
18. 屏風東壁ルンピ
19. 下又白岩登り

以上

南アルプス全山縦走報告書

メンバー: 山田, 丸山, 林, 澤田

期間: 7月16日 → 7月29日

記録

7/16 松本—小淵沢—駒ヶ岳神社—(黒平尾根)—五合目小屋
⑤, ガス 5:10 7:30 8:15 15:30
電車 97シ— 急登の連続。小屋有。

7/17 五合目小屋—七合目—甲斐駒ヶ岳—北沢峠
① 4:00 5:10 7:50 12:30
天気も良く、快適な1日だった。

7/18 北沢峠—仙教(◎)—伊那荒倉(◎)—西俣(◎)
①~◎ 5:00 9:05 1:15 15:30
澤田が大仙丈の下でネンザ(右足首)。

7/19 沈殿 ジョニ思などという酒を飲んだ。
◎~◎

7/20 西俣—左俣沢—北岳—間ノ岳—農鳥小屋天場
①~◎ 4:30 6:00 9:30 12:20 13:15
7:45 北岳手前1ヒコ4付近で北上ロープと出会う。
北岳からの展望は良かった。

7/21 農鳥小屋天場—西農鳥岳—農鳥小屋天場—熊平—雪投沢源頭
① 3:40 4:20 6:00 8:00 11:45

7/22 雪投沢源頭—塩見岳—三伏峠—高山裏天場
① 5:30 6:15 9:30 15:00
三伏峠から天場は遠かった。それ? 天場の汚い水。

7/23 高山夏天場 — 中岳 — 鬼沢岳 — 中岳 — 荒川小屋 — 大聖寺平
① ~ ② ~ ③ 5:30 8:15 9:10 10:10 11:00 11:50

林が足の付根のリンパ腺を腫らしたので、11:50大聖寺平にテントを張った。翌日も具合が悪ければ下山とした。夜半、強風、雨、テント半壊。

7/24 大聖寺平 — 赤石岳 — 百向洞天場 (●)
④ ~ ⑤ 5:00 6:30 8:00

林の具合は良かった。赤石岳付近はガスと強風で苦しい登りだった。

7/25 百向洞 — 鬼岳 — 聖岳 — 聖平
⑥ 5:00 8:40 11:20 13:00

7/26 聖平 — 上河内岳 — 茶臼岳 — 烏老岳 — 光岳 (●) — 信濃俣岳天場 (●)
⑦ ~ ⑧ 光岳からは起伏の激しい悪路。テント内では食物の話が多かった。

7/27 沈殿 10:30 ⑨ → ⑩ 気象判断失敗。
⑨ ~ ⑩

7/28 柵信濃俣天場 — 信濃俣岳 — 大根沢川 — 大無向小屋跡
⑪ 4:30 5:25 11:00 14:30

倒木の多い悪路。サブコキも辛い。水場に100m程下る。

7/29 大無向小屋跡 — 大無向山 — 小無向 — 小無限小屋 — 大無向
⑫ ~ ⑬ 4:50 (小屋) 5:30 7:00 9:45 11:00

大無向 - 小無向は起伏の激しい悪路。小無向小屋からは良く整備された道があり、かなりのスピードで下った。

感想 二週間の長い縦走だったが、おバテの予定を消化できて良かった。この様な長期の縦走には総合的な体力と技術が成功を左右すると感じた。
— 澤田 —

★南アルプス縦走(北上隊)

期日. 7/12(土) ~ 7/22(火)

L. 田瀬 M. 岩村. 細川

7/12(土) 伊那 ~~-----~~ 平岡 973- 本谷口 ~~-----~~
[◎/◎] (6:25) (9:30) (10:30)

易老渡手前の作業小屋(820m)
(2:55)

7/13(日) TS発 ~~-----~~ 面平 ~~-----~~ 易老岳 ~~-----~~
[◎/◎] (6:20) (9:00) (1:35)

仁田池小屋着
(5:00)

7/14(月) T.S 発 ~~-----~~ 上河内岳 ~~-----~~ 聖平小屋着
[◎/◎] (7:40) (10:00) (12:00)

7/15(火) T.S 発 ~~-----~~ 聖岳[3010m] ~~-----~~ 免岳避難小屋
[◎/◎/◎] (7:45) (10:25) (1:10)

~~-----~~ 百間洞幕営地着
(5:00)

7/16 (木) T.S 発 —— 赤石岳 [3120m] —— 荒川岳 [3049]
 [◎/◎] (5:40) (9:10) (1:10)
 —— 高山裏避難小屋着 (3:25)

7/17 (木) T.S 発 —— 小河内岳 —— 三伏峠 ——
 [◎/◎] (5:50) (9:15) (11:30)
 塩見岳 [3046m] —— 雪投沢源頭露营地着
 (4:15) (5:50)

7/18 (金) T.S 発 —— 熊平小屋 —— 間岳 [3189m]
 [◎/◎] (7:05) (10:40) (1:15)
 —— 北岳稜線小屋幕营地着 (2:20)

7/19 (土) [◎] 三丸 展

7/20 (日) T.S 発 —— 北岳 [3192m] —— 西俣
 [◎/◎] (6:20) (7:15) (10:10)
 —— 高望池着 (1:40)

7/21 (月) T.S 発 —— ^[3032m] 仙丈岳 —— 北沢峠 —— 六方石
 [◎] (5:25) (8:25) (10:35) (1:45)
 —— 甲斐駒ヶ岳 (3:00) —— 六合目石屋 (5:50)

7/22 (日) T.S 発 —— 鋸山 P2 ^{当夜社 (30)} —— 鋸山 P1 ^{明石川} —— 戸台
 [◎] (7:05) (9:00) (11:00) (4:10)

感想 易老岳と(甲斐駒)の登りがとてもしんどい。鋸山は、もろいがか
 楽しい岩登歩きができた。全体的に、アッポタウンが多く、
 日数も長かったのできつかった。(細川)

7月1日 日下Sー スゴ小屋ー 葉師岳ー 葉師峠
 5:15① 8:40② 3:00③ 4:25④

今日は夏丁場だ。スゴの乗越まては平らな道がわりだ。すきり
 久しぶりにお天気か。尾の二とたけが唯一の牧場と名な
 がスゴの乗越から。は。芝々として。葉師本峰の遠いこと。一
 北葉師の頂上は。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 葉師の頂上は。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 天気が。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 くら。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。

7月18日 葉師峠ー 北俣岳ー 五郎岳ー 五郎平
 5:30① 7:35② 10:50③ 1:40④

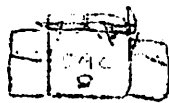
北俣岳付近は。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 かし。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 二。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 人。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 郎。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 には。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。

7月19日 五郎平ー 三俣シカガー 双穴池
 10:25① 12:40② 2:15③

また。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 雨。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 した。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 ント。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。

7月20日 双穴池ー 槍の肩ー 横尾ー サマ天
 4:50① 10:20② 2:45③ 5:20④

西鎌を登る途中。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 た。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 くら。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。
 との。お天気。お天気。お天気。お天気。お天気。



(中根 穂高)

飯豊朝日縦走

・L 茂呂 関

・9月3日～10日

・行動概要

9/3 ① 松本 ~~→~~ 五泉 ステーションビバーク

9/4 ② 五泉 ~~→~~ 山都 ^{タクシー} 御沢小屋 — 地蔵山
9:45 12:20

— 三国岳 — 種蒔山 — 切合小屋①
1:40 2:45 3:10

朝一番の列車でも一番のバスに間に合はず、次のバスは
登過ぎます。悪い状態だったのでやむを得ずタクシーに乗る。
タクシーは御沢の小屋まで行ってくれる。地蔵山の夏季小
屋はすでに壊れた。三国岳の少し手前には稜線下約
30mの所ニ氷場があった。切合小屋は氷場まで7
～8分位だった。

9/5 ③ 切合小屋 — ソーリ塚 — 頂上小屋 — 飯豊山頂
5:50 6:40 7:30 7:55

— 御西岳ヒナン小屋 — 御手洗池 — カ行ギ小屋
8:50 10:00 12:00

— 内内小屋 — 地神山 — 頼母木ヒナン小屋①
1:40 2:45 3:45

頼母木の小屋は未だ建設中の小屋であったが、大工さん
が泊めてくれた。水は谷から小屋前までひいてあった。夜半
から風雨が強まり、暴風雨となる。小屋のありがたさ
を思いししと感じた。

9/6 ④ 小屋 — 杖差小屋 — カモス — 大石 ^{カマ} 越後下関 ~~→~~ 小園
10:50 12:20 3:30 6:00 6:30 ステーション
ビバーク

夜半からの暴風雨が朝まで残り出発を遅らされた。
雨が上ったあともひどいガスであったが、行動を開始
してまもなく視界が開けるきた。杖差小屋からの下り
は非常に急でつらかった。大石のガムの少し向うで車に
拾われ、越後下関から列車で小園まで行った。

9/7 ◎ 小国 バス 朝日平 — 角楯小屋 (月)
9:00 10:30

朝日平から20分程歩いた所でまた車に拾われ針生平まで乗せてもらってそこから小屋まで1ヒツケ。小屋は水場まで2分位。小屋のあたりで雨がふってきたので行動を終えた。

9/8 ● 雨の為沈

9/9 ◎ 角楯小屋 — 北大王山 — 天朝日岳 — 西朝日岳
5:25 8:25 10:30 12:10

— 竜内小屋 — 寒江山 — 以東小屋 (月)
1:15 2:30 5:40

稜線は結構水が豊富にあるといえる。しかし以東小屋は100m位下らないといけな。近日の天候の不安定、台風の接近などを考え、確実に1日で下れる所まで少々無理をして行動した。

9/10 ◎ 以東小屋 — 大島小屋 — 冷水沢吊橋 — 大島バス停 バス
5:05 6:30 7:45 11:20

鶴岡 ~~→~~ 松本

いつものこたひから下山の林道歩きの長さはやはりしんどい。

感想・反省

今回が一番強く感じたことは、合宿直後の個人山行がいかにかきものかといふことであつた。この山群自体はアルプスに緑の深い撲達にとれば新鮮だがあつて興味深きものであるのだが、合宿の疲れが意欲を減退させたことを否定できない。時期を選べば、もっと楽しめる山である様な気がする。ESSEN 装備にかいては問題なからず問題点を挙げるならば、「松本からの交通が不便」、高い交通費であると思う。テントに関して言えば、計画では積極的に用ひ予定であつたが実際に行つてみて小屋が多くあつて皆管理人が無料で泊れた為にテントは使わずに終つてしまった。この時期ならツェルトで良かったかも知れない。いくつかの計画変更は天候の不安定をその主な理由としている (by せき)

大井川赤石沢 7/28 ~ 8/2

(主) 川原修、関圭三、花名見、田進楽

7月28日 ◎ 松本 → 東条 → 二軒小屋
 5:00 10:40 18:00

7月29日 ◎ 湖行野池 → 二工業の高まき → 岩小屋
 7:15 13:40 16:55

決まり取り付いてからしばしばは難調なく。最初の難所は
 二工業の高まき手前の横溝。ここは、湖の出口の横
 しを渡す。二工業の高まき入口と思われる所は、藪の
 原相を登り、湖の上の赤旗がある。ゴシックの跡を登るが、
 うしに登る。湖上の止木の赤旗は、さらに上へ入っている
 るが、暗くなってきたので湖小屋を見つけ、ゴシック。

7月30日 ◎ → ④ B.P. → 沢にあり。 → ⑤ 湖手前
 5:45 8:20 14:00

岩小屋から下降を開始する。藪の跡を下るとやが
 て傾斜が強まり、右の屋根ヘルメットをとる。さらに右へ下る
 うまい具合にサトに降りた。きのうより明るいムーン
 で紅葉を始める。石割の跡を登り、あたりに木が落ちだし、
 行動がうさぎのゴシック

7月31日 ① → ⑤ B.P. → 大ガラン → グズシ沢手前
 11:00 15:00 16:30

積木のため遅れて出発。門の湖の高まきには1時間以上を
 費した。大ガラン手前の湖の右岸は朽つたてであり、20m
 の登撃となる。

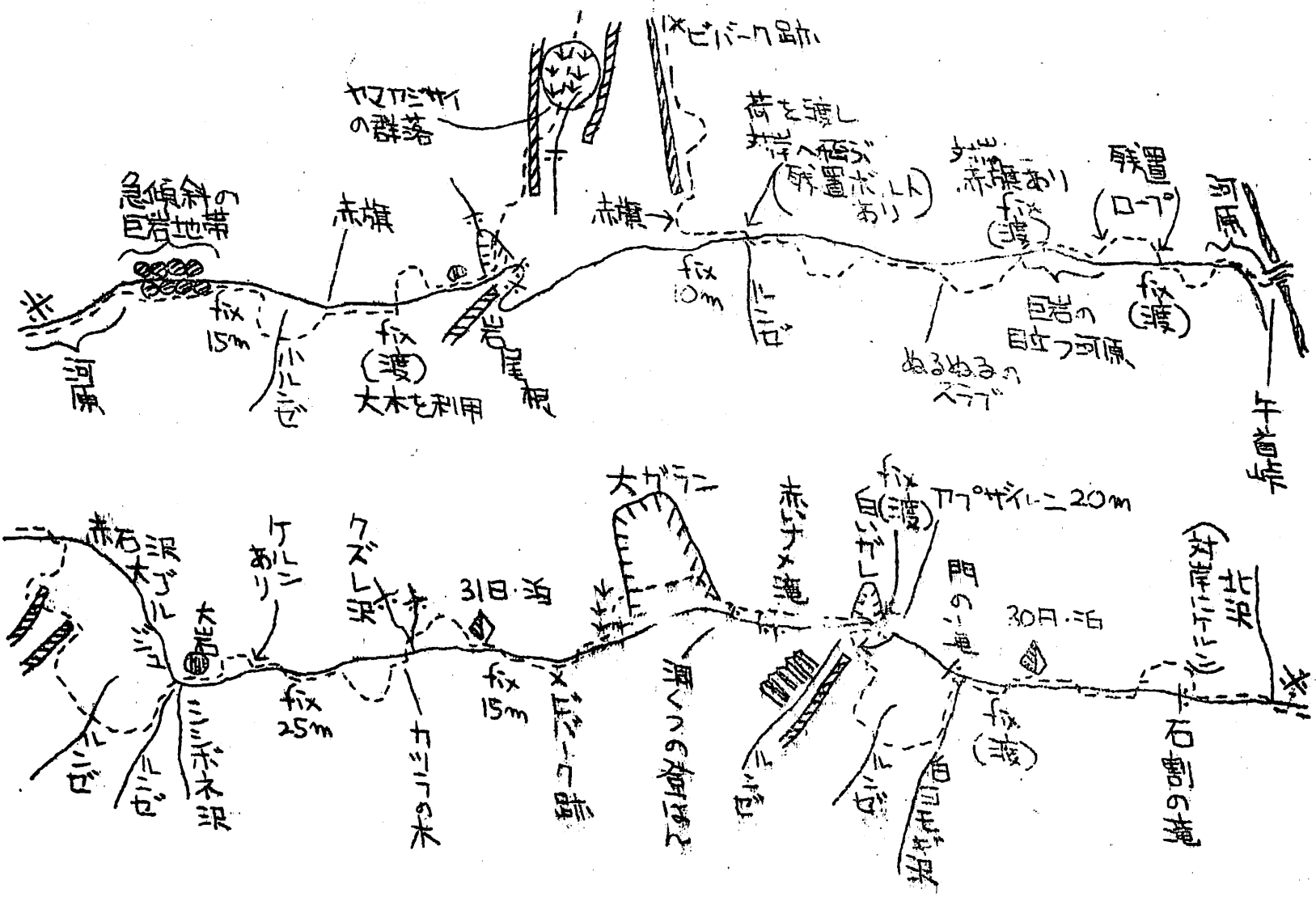
8月1日 ◎ B.P. → 自問湖總管地 → 赤石岳 → 荒川
 5:40 12:10 16:00 18:00

出発してまもなく現れる入り(分)は最悪。それをやぎ
 るとロッという間に赤石大ゴシックの入口に達する。この湖
 まきは登山道に終り、あとは山道で歩くだけとなる。
 いいかげんだるくな。赤石、岩屋、湖に合流。

8月2日 ◎ → ① B.P. → 広河原川屋 → 鹿塩
 7:30 9:30

広河原から林道へ出るまでは今さら楽しくもない湖行が何
 度となく続いた。

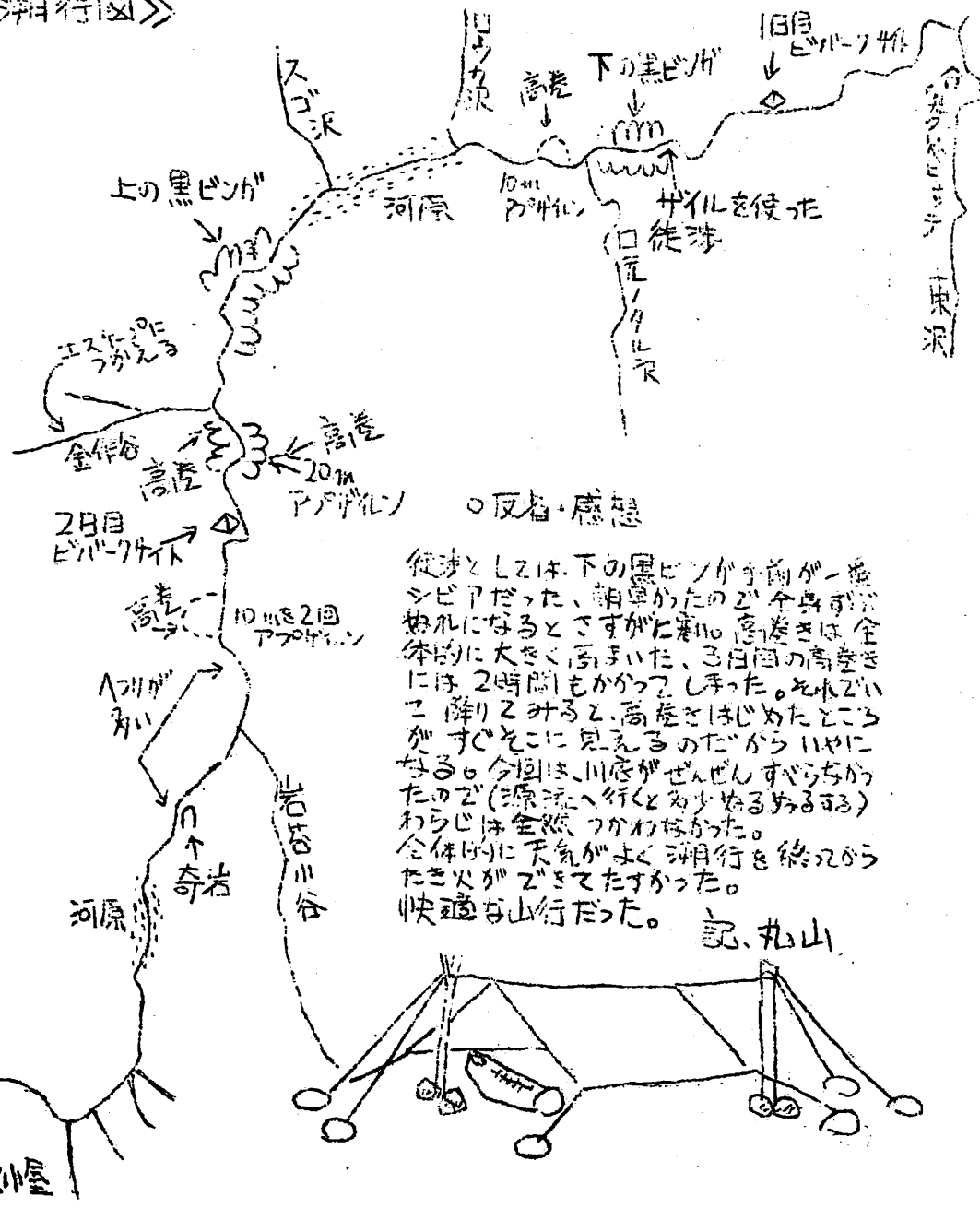
(田子)



と、双六の間の斜面でフライを分けてやる。

8/12 ① → ② 下S → 双六小屋 → 樽の森 → 横尾 → 新村橋 → サマ天
 5:20 6:00 9:25~10:15 13:15 14:05~14:50 16:10
 ただ八尾まで歩いてサマ天まで、川原の御宿まで車を参りへ行く。

《潮行図》



○反省・感想
 徒渉としては、下の黒ビンガ手前が一箇
 シビアだった、朝早かったのが今身が
 始れになるとさすがに朝の 高差は全
 体的に大きく高まった、三日目の高差
 には 2時間もかかってしまった。それ
 が 降りてみると、高差ははじめたところ
 だ、そこに見えるのだが、川原に
 なる。今回は、川原がぜんぜんすげえ
 たので(源流へ行くと多少ゆるゆる)。
 わらじは全然つかわなかった。
 全体的に天気がよく、潮行を終り
 たとき火ができてたすかった。
 快適な山行だった。 記、丸山

幕岩大凹角ルート

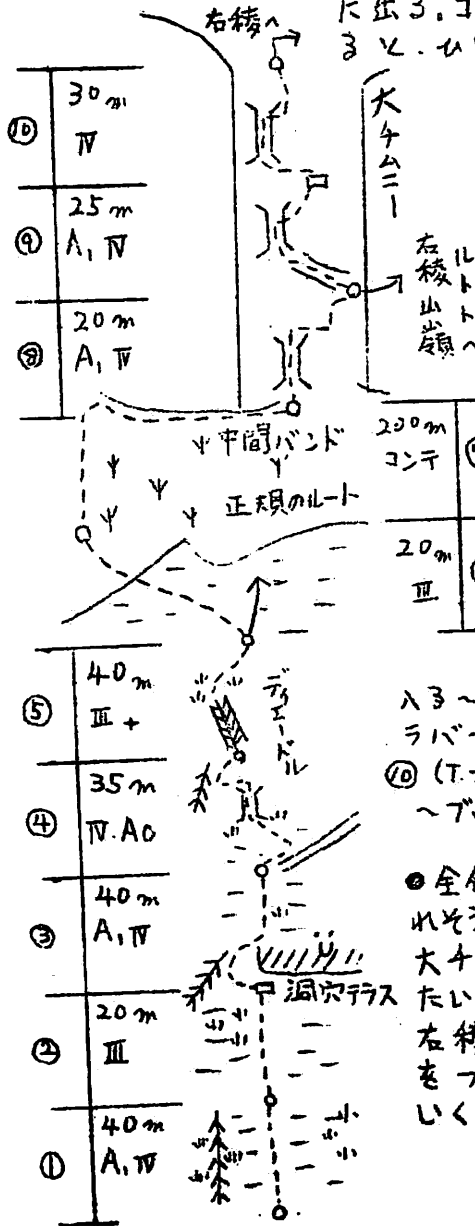
7/20 ~ 21 加藤川原

7/20 ● 伊那 = 松本 = 大町 = 七倉 - 大町宿

13:00 14:00 17:00

7/21 ① 大凹角ルート登ハン (取付 5:30 右稜下降 終了 10:30 ~ 往路下山)

取付まで) 大町の宿から涸れた小沢をつめ、右稜のコルに出る。コルより急なブッシュを左へ50mトラバースすると、ひらけた取付へつく。



- ① (TOP) カワフェースをフリーで10m~人工で直上
- ② (T.カワハラ) フェース-草付 ハング下まで
- ③ (T.カト) 人工でテラス左壁~右トラバースフェースを直上。浮いた草付に注意
- ④ (T.カワハラ) バンドを少し登りスラブ左斜上(A0) ~ クラック(IV) ~ 出口を左へ回りにみテエドール
- ⑤ (T.カト) 傾斜のゆるいテエドール ~ 塔段上草付 ~ フェース
- ⑥ (T.カワハラ) 正面スラブはめけてじやらしいので左斜上しカン木帯へ入る
- ⑦ コンテでカン木帯を直上し岩壁基部を右へトラバースして大クムニ-取付へ
- ⑧ (T.カト) 小クムニ-をフリー~大クムニ-右壁(A1)-草付テラス
- ⑨ (T.カワハラ) 草付を左トラバースしてクムニ-内へ入る~右壁直上(A1)しクムニ-外へ出る~テラスより左トラバースしクムニ-内へ入る
- ⑩ (T.カト) クムニ-中程より右壁を登り外へ出る~ブッシュの多いフェースを登り終了。

● 全体にグチグチめけてじやらしい。特に草付ははがれそうではなかった。下部はA1とフリーのじやまったルート。大クムニ-が核心でクムニ-内は浮石が多い。たいしたこともなく10ヒンクあけなくめけてしまった。右稜のアフガイレンは20mで足りず、シュリッゲをつなげてのはした。絶対9mφ×2をもちいくべきだ

(川原記)

屏風岩東稜～雲稜ルート

○ 7月25日 ① L吉田 藤井

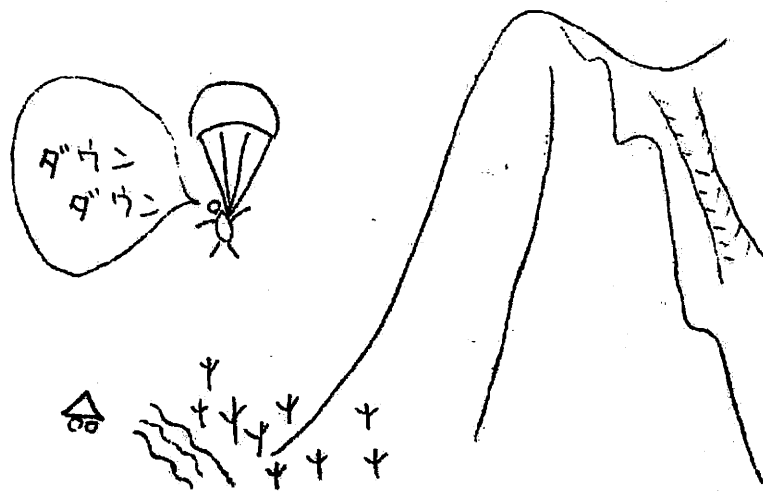
S.T. → T4尾根 → 雲稜ルート → 同ルート
4:00 6:30 2時間半

下降 → T4 → 東稜 → 屏風の頭 →
12:00 3時間 4:00

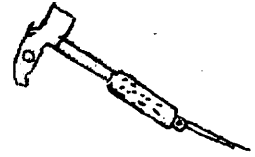
パラマ新道 → 徳沢 → S.T.
7:00

- 雲稜は東壁ルンゼに入るところまで。
T4のザイレンは、かなり振りながら行かう。
そのpitchをのぞいてフリー。藤井は14所
10。
11のpitchのボルトはほとんどリングがなく、
きとびもで代用している所もある。
- 東稜はボルトもきいており、ひたすら単純
作業に徹する。

ルート図は「日本の岩場RCCR」を
参照のこと。

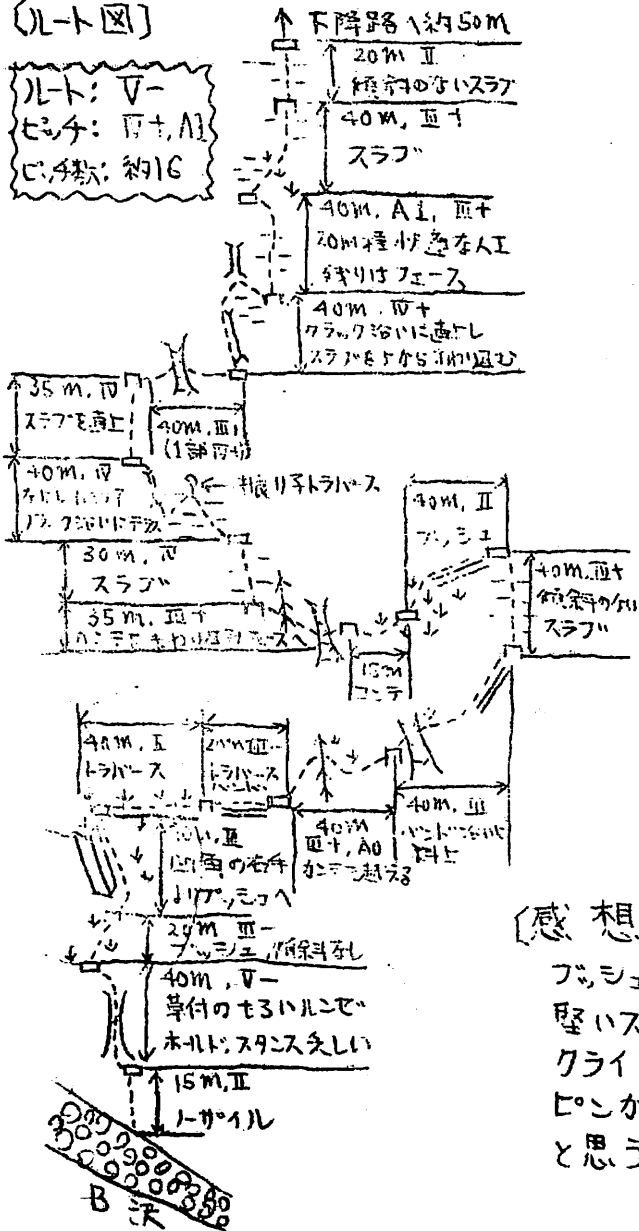


幕岩 S 字ルート登攀



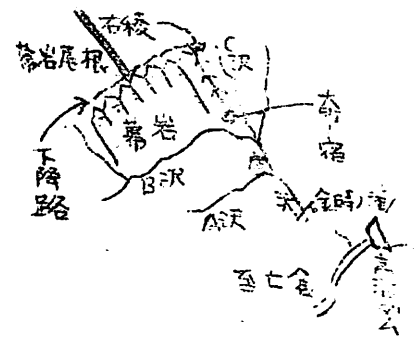
- 期日：7月28日 天気：☉の5-時☉
- Member：(山)山本, 師田, 岩村, 保科
- コース：七倉～大町(岩小屋)～取付点～終了点～右後～七倉
(8:20) (15:30)

(ルート図)



＊取付までは、唐沢まで行し、全時の滝は右岸を巻く。又に登るとB沢出合(右岸)に木橋あり。B沢沿いに登ると、顕著クラック状の心せがある。

＊下降は幕岩上部に付いた下降路を右後までトラバースし、右後はアップカイル7回(40m)をいす。右後下降後は大町(岩小屋)へ寄り、高橋の沢で下降し、ウッドラングで唐沢まで急流渡りかへ。



感想

ファミシの多下部を除けば、岩の堅いスラブが続き、快適なフリークライミングが楽しめる。全体的にピンが少なかったか、極めて好ルートと思う。

((保科))

千丈沢～小槿～滝谷

Member L 山本, 岩村, 保科, 中根, 細川, 飯島

7月29日 ◎ 七倉～高瀬ダム下
7:55 8:35

- ・早朝、松本を立、1年部員と昨日幕岩を登攀した上級部員が七倉で合流。ダム下の唐沢出合まで歩き一本、保科、岩村の2人が昨夜、取付きに忘れてきたギールをこしらへ行く、昨日の疲れを考え、今日はダム下の台地下幕営

7月30日 ダム下下S～湯俣～千丈出合～三沢出合下
4:45 ◎ 8:00 ◎ 10:00 ◎ 12:40 ◎

- ・湯俣の手前より雨と存る。千丈沢岸の道は、稜道寸前の状態。ヒドイ道であり、雨の中のヤブこぎとなりミニドイ登り、あまりよい天場が見つけられず、しかたなくガシの押出しの先端を利用して張、圧か、雨は、ほけしさをまし、沢はスゴイ増水と存した。夕方、「ガシ」が突前に「沢」と化し、テントの中に「沢」が溢れて、大さね者と存す。

7月31日 下S～槿の肩 (3:30～5:15 小槿登攀 ◎)
11:00 ◎ 2:50 ◎

- ・しばらく天気の様子を見る。千丈沢側フェースはあきらめることとなる。槿の肩まで上がり、小槿登攀も出る。登攀、下降ともに2ピッチの岩のクワイ候道も登攀であった。二日続いた雨も、と上がり、槿の繩に登る人数、ほくらはいいサウシ物となった。中根が小槿の上で「アルペンおとり」をせると大槿や肩からアニコールが飛びかい、おはらうしたので……

8月1日 槿の肩～南岳～北穂(保計岩村は+M中央稜登攀)～涸沢～上高地
4:45 ◎ 6:40 ◎ 10:10 ◎ 11:30～1:30 ◎ 3:00 ◎ 5:35～6:20

- ・大キレットの下りで細川がヘルメットを落とし、山本とさかしたに行く、か見ながら登攀できなくなってしまう。残り4名はドーム中央稜を登攀、涸沢で一本後、谷を走って下る。細川、中根、岩村は横尾を通過してS-Tまで約2:30で下り、残りの3名はパトラマを3:00あまりで下った。明神-S-T間でほくろを元気づけてくれた女性、どうもありがとう。

おまわり図は、日本の岩場、実戦、RCCI、AVI 登山隊、槿・穂高を参照。

(中根穂高)



穂高系連続登攀

8月4日 ~ 6日

L. 山本(雅) 藤井

08/4 ① → ②

S. T. → 扇岡岩 T4 屋根 取付 →
4:00 7:30

T4 屋根 → T4 → 蒼稜ル-1 →

大テラス → 青白ハンカ 緑ル-1 →
10:00

終了点 → 涸沢岩小屋
4:30 7:30

- ・ 緑ル-1 の A2 の 2 pick 目 付近 此類 の 高 高度感 を 感じ る。 また ハンカ を 踏 け て か した 凹 角 に 入 る までの 草 付 の フリー が 思 っ (10+ ~ V?)
- ・ 蒼稜 は pick と も 大 工 で あ り が、 こ の が 非 常 に 遠 く、 かつ 注 い て いた ため、 部 分 的 に A2 と 思 っ わ れ た。
- ・ 終了 した とき は 既に 暗 向 も 遅 く、 雨 も 降 っ て いた の で 北 屋根 へ 行 け ず 涸 沢 へ 行 く。

08/5 ① → ②

B. P. → 北穂北峰 → C 沢 左 俣 →
5:30 7:00

ダイヤモンド 左 俣 存 庄 ル-1 取 付 →
9:00

終了 → 北穂北峰 → 涸 沢
1:30 2:30 7:00

○本庄のハンク下の部分は非常にもろいため、ダイレクトを登る。1pickで合流。藤井がAOでピンを抜き5m程落す。ピンを手前と置いてしまったためである。

おいて上、雨がジーンジーン降ってきたのでドーム西壁、川口を止めて北壁へ向かう。3時間程雨宿りの後、遅延へ。ツルモンドベースも上は雨がたかたか。

○8/5(1)◎

B. → 北壁根Vのピル → 北壁のピル

→ C. 沢 → 前壁東壁Dベース 同ピル → 11:30

取. → 終了点 → 前壁 → 5:30

○ガリの部分をフリーで歩けると思いつても、下は下アミで登る。途中でV、pickなど無く下へ下へ。上はV pickはメチャクチャにもろく、又も思い出す。

各ルートは「日本の岩場RCCII」を参照のこと。

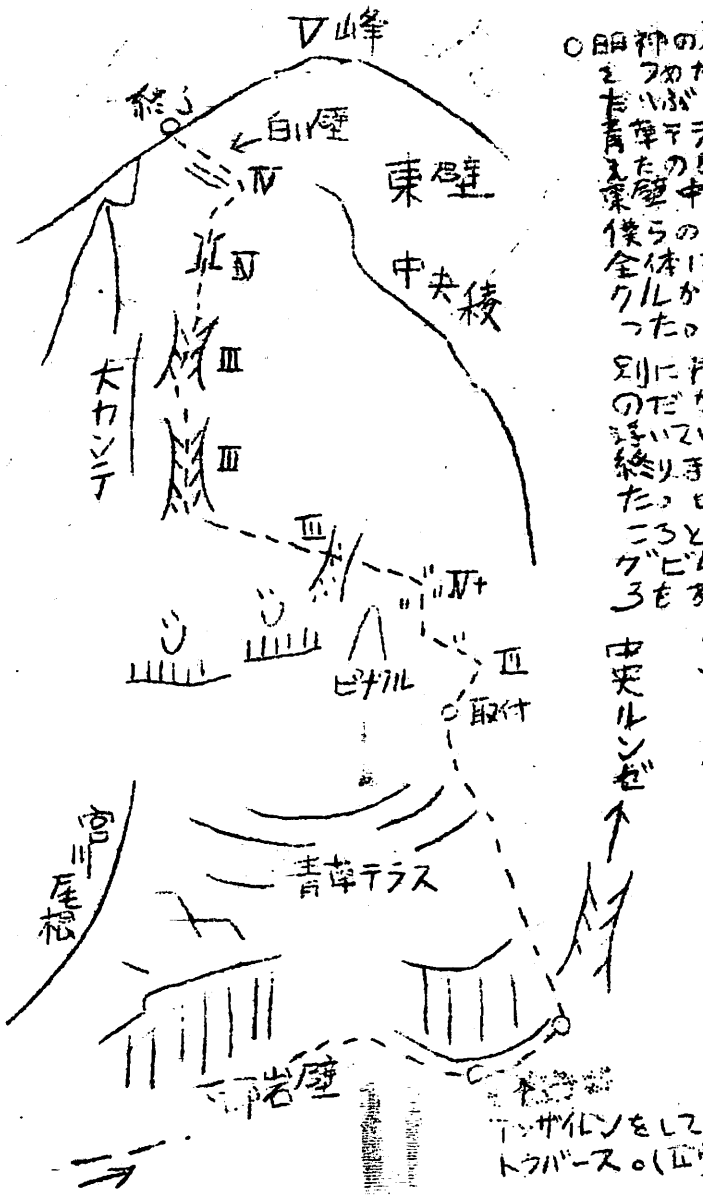
山本談「もう二度ともろいとこはイヤヤ」

藤井談「もうこの服着られへん」

明神五峰正面壁

L. 加藤、丸山

8/4 © S.T. — 宮川尾根 取付 — 終了 — 五山峰 — () — S.T.
 5:15 7:40 9:10 3:30 4:00 6:40



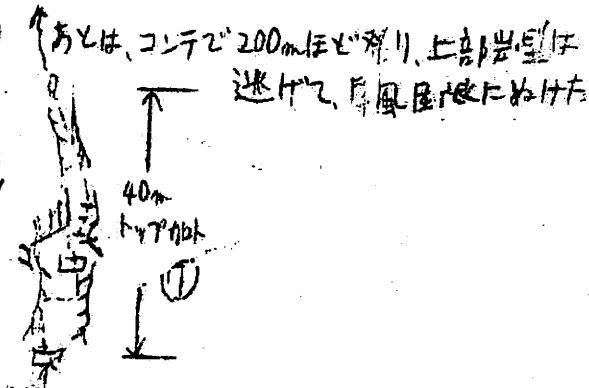
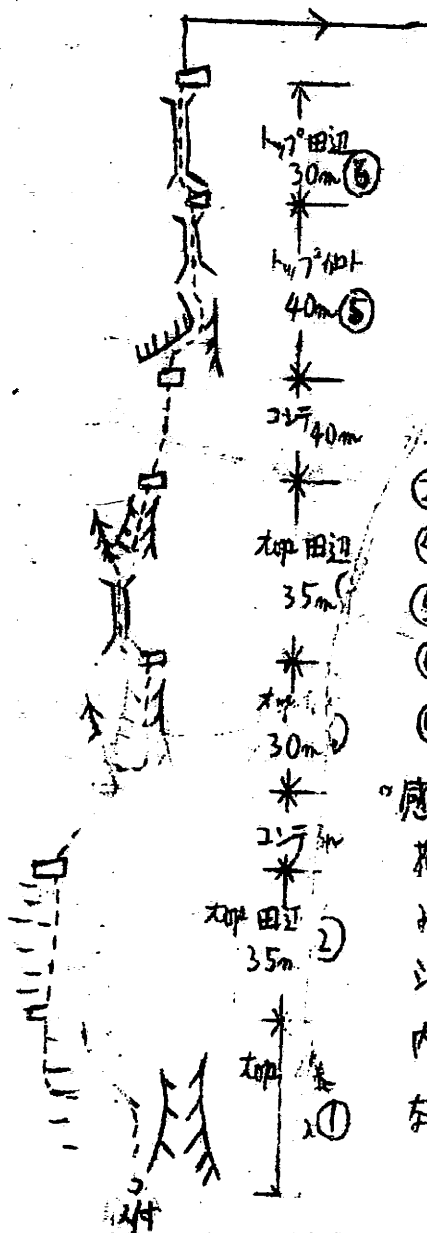
○明神の養魚場から下宮川のガレ沃
 をつかたが、宮川尾根のゴルマリ
 たいが上のごうが乗越してしまつた。
 青草テラスをカールホーアツと手ごが
 またのが敗内だつた。(予定では
 東壁中央稜に登るはずだつた。)
 僕らの登つた五山正面壁は、
 全体にボロボロで特に、ピチ
 クルから上部が、非常にもろか
 った。岩さえしかりしていはば、
 別に問題になることもなかつた
 のだが、つかむホールドすべりが
 少ないという感じ。せめて始めから
 終りまで、非常に緊張させられ
 た。ボンはさびたハーケンがと
 ころどころにあるくらい、ランニ
 グビレを踵足にとれぬといふこ
 ろもあつた。(岩がもろいためハー
 ケンも打つてきまがなかつた)
 といふ、僕も加藤さんも
 落石で多少傷をしたが、無
 事下山でき、おかつたとい
 うのが正直なところだ
 取付から終りまで7.8ピチ
 あり、たいがいつるべでつ
 かつた。もうこんなもろいところ
 へは、二度とまたくないこ
 ろだ。記 丸山

屏風岩 | ルンゼ

○ L. 加藤、田辺

○ 8月5日 ① → ● S.T → 横尾 → 取付 → 終了 → 又新道よりS.T
 5:15 7:45 8:30 12:45 17:00

○ ルンゼ



ルート説明

- ② 非常に微妙なバランスの時フェース。
- ④ 44-1は、凹凸がまったくなくまっかしい。
- ⑤ かわつては下を、体をすべりにさせるように。
- ⑥ 極度の困難さ。
- ⑦ 力をさけて、ウツツルの岩を登る。

感想

花崗岩のルートで、ホールドはみな、本めらかた
 みがかれています。運動じつこのフリ
 ションで登ると快適だった。
 内面登攀は、日3、あまり練習し
 ないので、さんさん苦労した。

(田辺)

總高継続登山

8月8日～10日

川原 関 茂名
(Ⅲ) (Ⅱ) (Ⅱ)

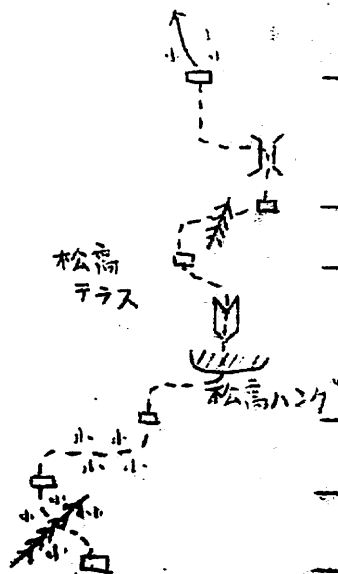
8月8日 ① ST出～1ルンで押出～T4尾根取付
4:05 6:20 7:20
～東稜取付 9:40 終了 5:00 } 瀬沢岩小屋 6:30

● 屏風の東稜は短いので、3人で登ってまよわぬほど時間はかかると考えていたが、実際にはもう少し時間がかかってしまった。TOPは河原、モロが交代してやった。また、人工の練習が不十分だったと思った。

8月9日 ① 瀬沢岩小屋～5.6のゴル～4.5のゴル
～D沢下降～四峰松高ルート～前ホ～
奥ホ～北ホの天場

● 1ヒック目は正規のルートと違うので、全体で5ヒック目な集り1ヒック目少なくなった。正規のルートは松高はくぐり手入直登きみに出る。全体的に高度感があまりなく上部には大きな等石がある。

(松高ルート)



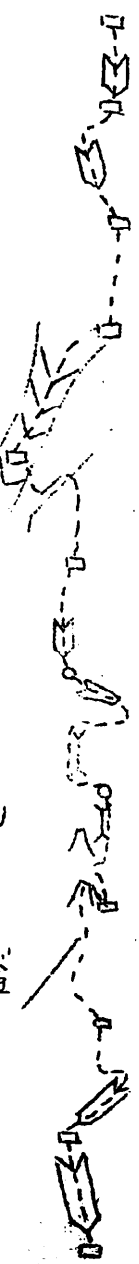
| | | |
|-----|----|---|
| 30m | Ⅲ | ⑤ |
| 15m | Ⅲ | ④ |
| 40m | Ⅲ | ③ |
| 40m | Ⅲ- | ② |
| 40m | Ⅲ- | ① |

また、D沢は、ズタズタで下まで下降時の危険があったので、途中で四峰へ回り込んだ。TOPは河原、関が交代してした。

8月10日 ① 北ホの天場 ~ 北ホ小屋 ~ クラック尾根
 ~ 北ホ小屋 ~ S.T

(クラック尾根)

| | |
|---|------------------------|
| ⑩ | 25m 四角ガサ Ⅱ- 小屋 |
| ⑨ | 35m 四角ガサ Ⅲ- ガラ場 |
| ⑧ | 15m コンテ |
| ⑦ | 40m Ⅲ- ルンゼ |
| ⑥ | 30m リンジガサ Ⅲ- ルンゼ |
| ⑤ | 40m 四角ガサ Ⅲ- リンジ |
| ④ | 35m クラック Ⅳ- ガサ四角 |
| ③ | 40m ヒメ+クレム Ⅱ+ クラック |
| ② | 40m リンジガサ Ⅲ- ヒメ+クレム |
| ① | 40m 四角ガサ Ⅱ- フェース |
| | 20m Ⅱ- 四角 |



・先行パーティーが3パーティーもあつたので、瞬間待ちが強いと思つたが、こっちは3人で登つてみたため、時間をくひ、結局、先行パーティー様々に何の影響もあたえなかつた。つまりTOPとルンゼが交代する際のザイル操作や、自國瀧着木のスムーズさ、ザイルのからまり、着木の時間の短縮する技術などが未熟だったので時間がかつたと思う。また、グイモンドフェースは行けなかつた。

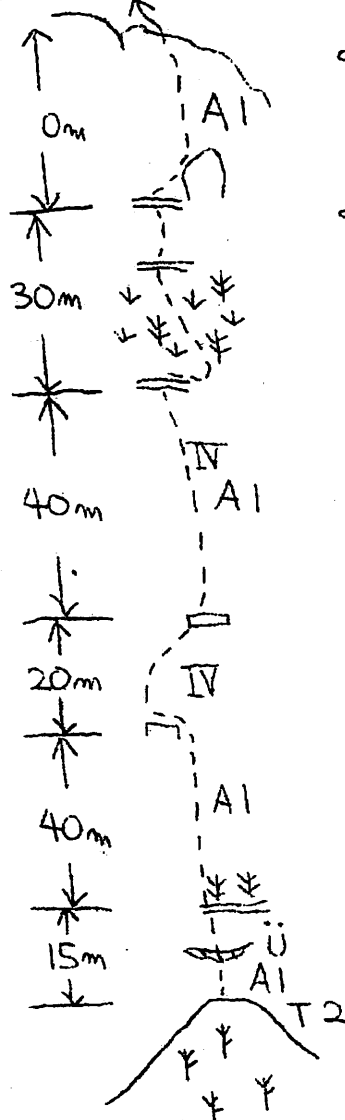
(全体的感想)

屏風東稜・四峰松高・滝谷クラック尾根と3日にわたる連続登山により、3種類の岩質の登つた岩を登つたのは、有効であつた。特に、屏風のような花コウ岩の岩場は、これまであまり体験したことのない岩だつたので最初はとまどつた。しかし、後の急斜面と合わせて、多くの花コウ岩の岩場を登つたので、だいぶ慣れてきた。また、潤沢岩小屋は泊まればいけないことになつてしたが、予定どおり、56のゴルへ行けなかつた場合を考慮して、永年からも潤沢岩小屋に泊まるかどうか、考えたいほうがよいと思つた。

穂高岳 継続 8/9 ~ 8/10

L、加藤喜章(IV)、田淵 潔(II) 同凡

8月9日 ① → ② S.T. → T4尾根取付 → 東稜取付 →
 4:40 8:00 9:15
 終了 → 北尾根最低コル → 瀧沢
 13:40 15:45 16:20



- 1P目 Top 田淵
T2から重壁を登り、ハバニゲを越え、ブッシュのはえているバニドに達する。
- 2P目 Top 加藤
単純なバグシの掛け替え。左へトラバースしてゲイルが40mいっばいに達した前不安定なバグシ。
- 3P目 Top 田淵
とほどもろくないフェース。
- 4P目 Top 加藤
バグシはハーテニが少なくなってく。前々フリーの部分もでてくる。登りを感じ始める。
- 5P目 Top 田淵
ピナクル稜線のバニドまで。
- 6P目
ピナクルから重壁を登り、ブッシュの中へ。
- 北尾根へ向う車にはさしたる善舞感を感じず、木の心配もあつたため、瀧沢へ降りる。(本当はタルかたから)

★感想
 はじめの屏風は実によびらしたが、継続は、体力や精神面を鍛えるうえで、悪毒のあるものだった。(田子)

8月10日 ○ → ⊙

ルート取り → 終ア → 11:40

B.S. → 5:40

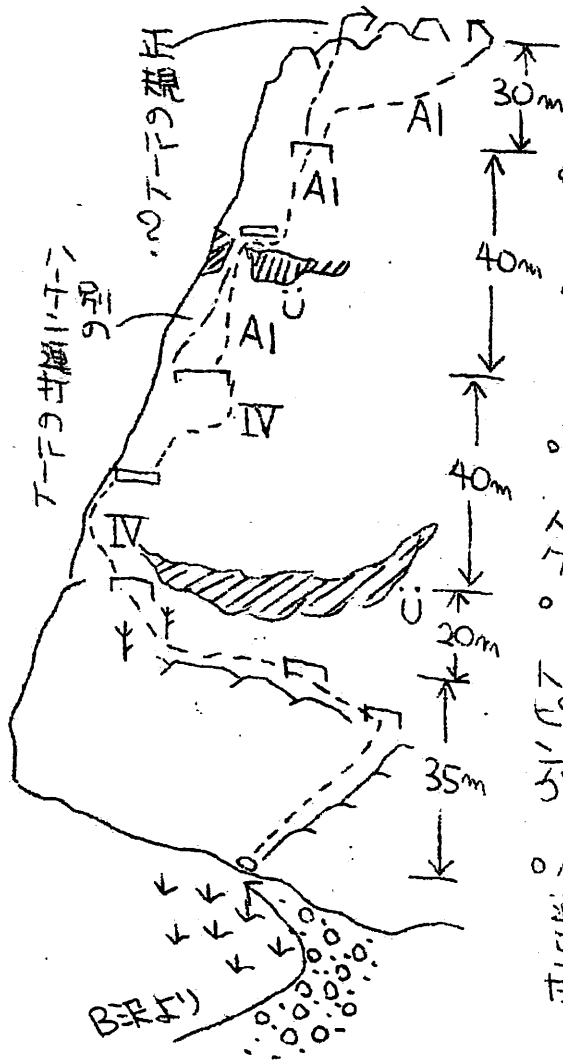
3,4のシル → 7:15

前穂東壁 → 右岩稜 → 左カニ

8:10

→ 前穂頂上 → 13:10

→ 北穂南稜テラス → 16:40



○ 1P目 Top 田楽
バンドを右上し、左カニ
への左のバンドへぐし入る。

○ 2P目 Top 加藤
バンドからフェースのはた
たまかへ端を左上。

○ 3P目 Top 田楽
岩をひっつけてカニへ
出る。カニテのテラスからは
フェース(スラブ帯)を登る。

○ 4P目 Top 加藤
出だしはシルの右から3m程
人工で。頂上に見えていたハ
グは左をまける。

○ 5P目 Top 田楽
正面のフェースは登れず、ル
ートは右へ続いている。崖の
ピッチのはずだったが、ハー
クのキキの悪い人工で、しんど
かった。

○ A7フェース 2P目 Top 田楽
適当な所を適当に登ってみ
たら、最上い登はんをしいられ
た。

8月11日 ○ → ⊙

午前中予定していたドーム北壁をやめ
て夙寝。

★ 三音 舎

期日 8月11日, 12日

L. 加藤, M 川原, 田淵, 林, 澤田, 細川

⑧/11 ST 発 ——— 横尾本谷橋手前 ——— 南後テラス着
 (4:40) (7:30) [蔵井の荘] (11:00) [加藤, 川原, 田淵と冷室]

① ↓
 ⑨ FS 発 ——— { 川原・澤田... 1尾根ノマル (13:30 ~ 17:00)
 (12:00) { 田淵・細川... クラック尾根 (13:30 ~ 17:30)
 加藤・林... トム西陵歯科大

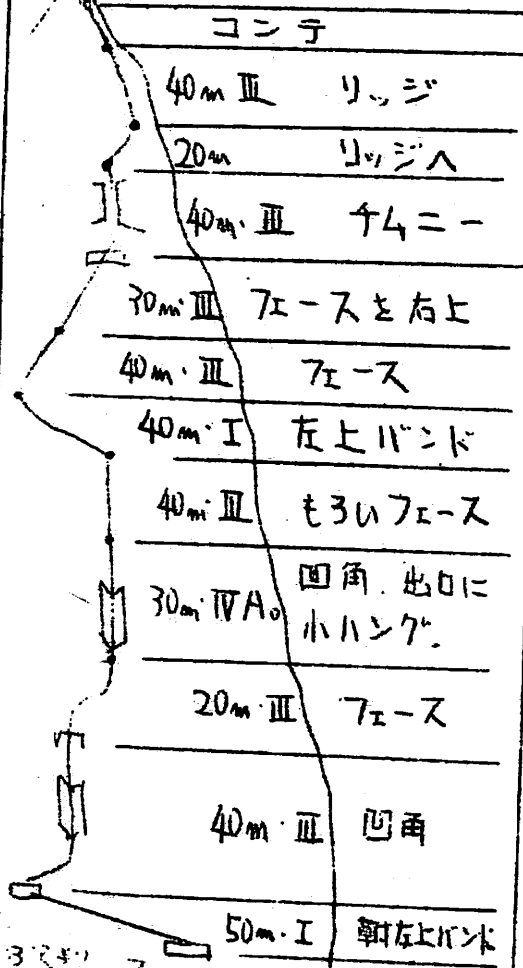
⑨/12 ① FS 発 ——— { 加藤・細川... 三尾根・トム中央 (7:00 ~ 11:20)
 (5:30) { 田淵・林... 三尾根・トム中央 (7:00 ~ 11:30)
 川原・澤田... P2万ヶ早大 (7:00 ~ 11:00)

—— FS 発 ——— 淵沢 ——— ST 着
 (13:00) (14:00) (17:30)

1尾根ノーマルルート◎

川原 - 澤田 [13:30 ~ 17:00]

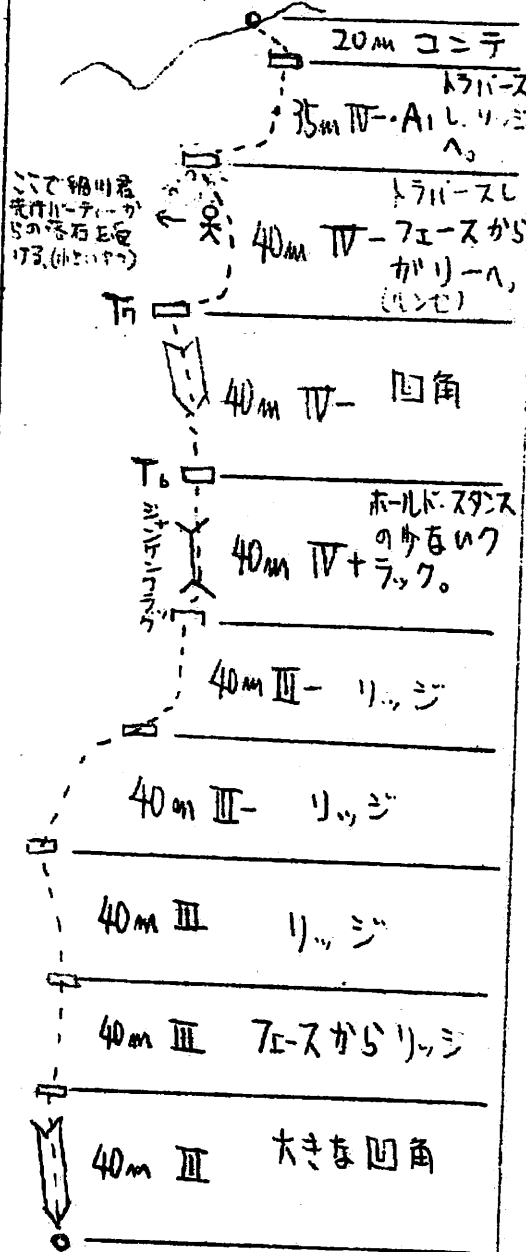
向上(地図)



・ 浮石が多く、岩も脆い。取付
きですら非常に緊張した。
ガスで視界も悪く、ルート
が良く見えなかった。
落石には絶対注意すべし!
(澤田)

クラック尾根◎

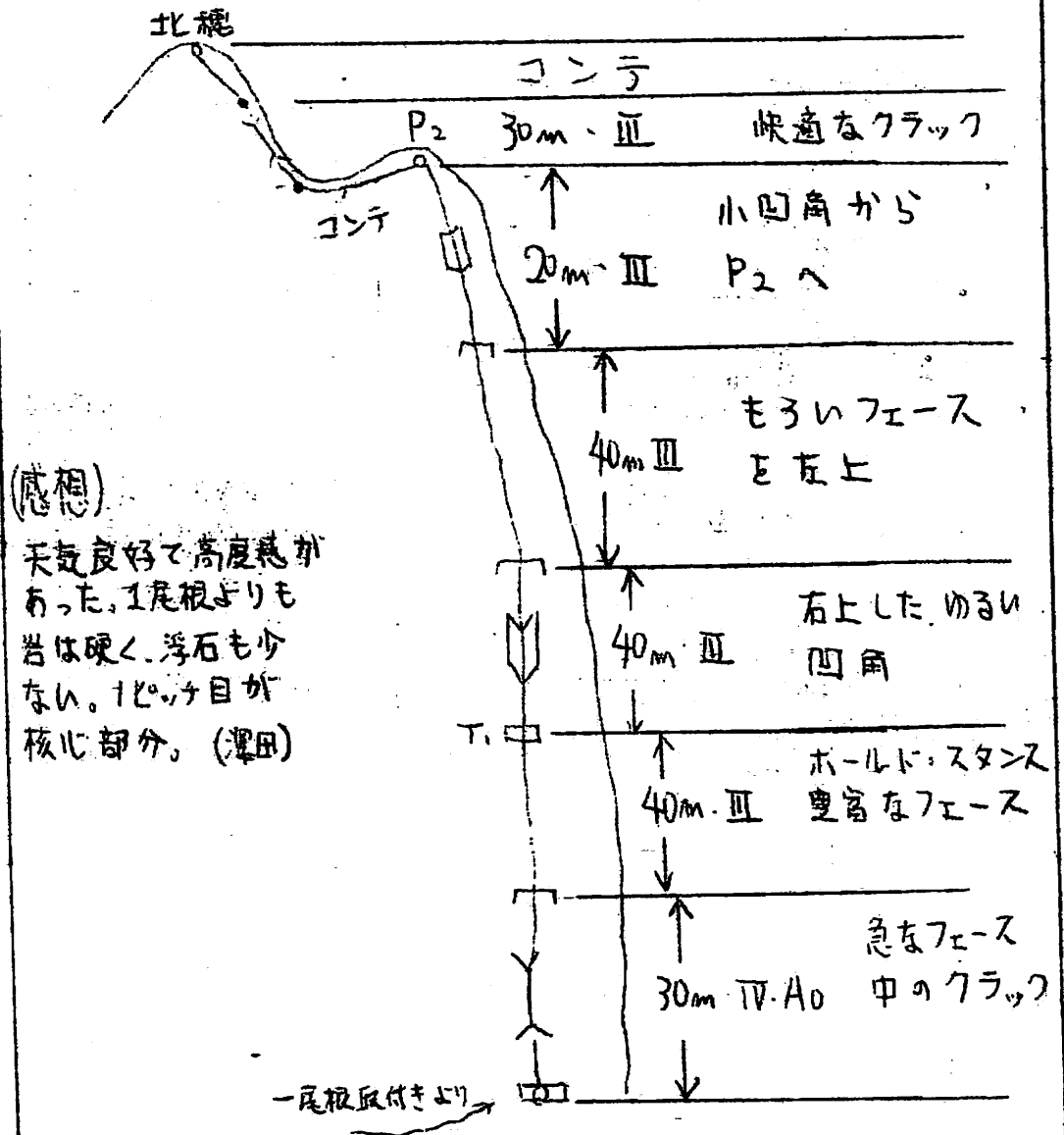
田瀬、細川 [13:30 ~ 17:30]



ここで細川君
先行リッチーが
5の落石を
173(おとす)

P₂ フランケ 早丸ルート

上. 川原. 澤田 (7:00 ~ 11:00) ①



(感想)

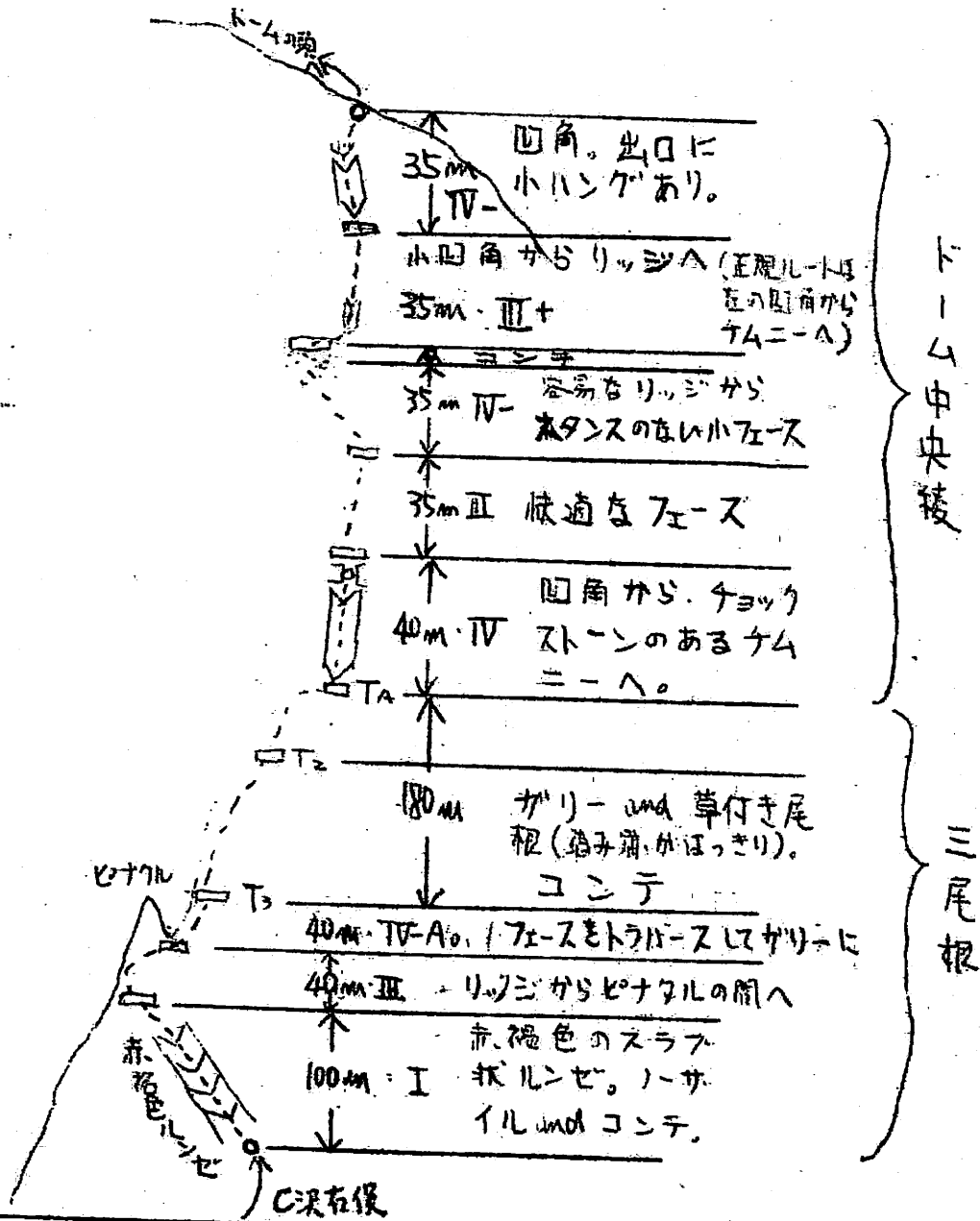
天気良好で高度感があった。1尾根よりも岩は硬く、浮石も少ない。ピッチ目が核に部分。(澤田)

三尾根・ドーム中央稜

① 加藤・細川
(7:00 ~ 11:20)

② 田淵・林
(7:00 ~ 11:30)

①



8/11.12. 前ホ、4峰 正面壁

L 山本 岩村 中根 今滝 (松本登山会)

8/12 11

◎ S.T — 中又白 — 栗又池 — 4峰正面壁
北条新村 11マツ行ス。

8/12

B.S — 4峰北条新村 — 4峰ピーク

①

(ここの2Party に別L)

L 今滝, 岩村

4峰ピーク — 3.4のこ — 右^岩稜言ルート ~

A2-2 ~ 前ホ

L 山本, 中根 4峰 — 5.6のこ — 4峰松高ル

~ 前ホ頂上。

前ホ頂上に2 Party 合流 後 急沢下降

<感想>

中又は岩がキツかった。4峰の取付に苦労する。

北条新村と松高ピークは、フリーで山た。

右岩稜は、ルートからかなりはみちていた様に思う。

どうもルートの外を登った感じがした。A2-2は
どこを登って登かそう感じでは、ここのた-くさん
あった。

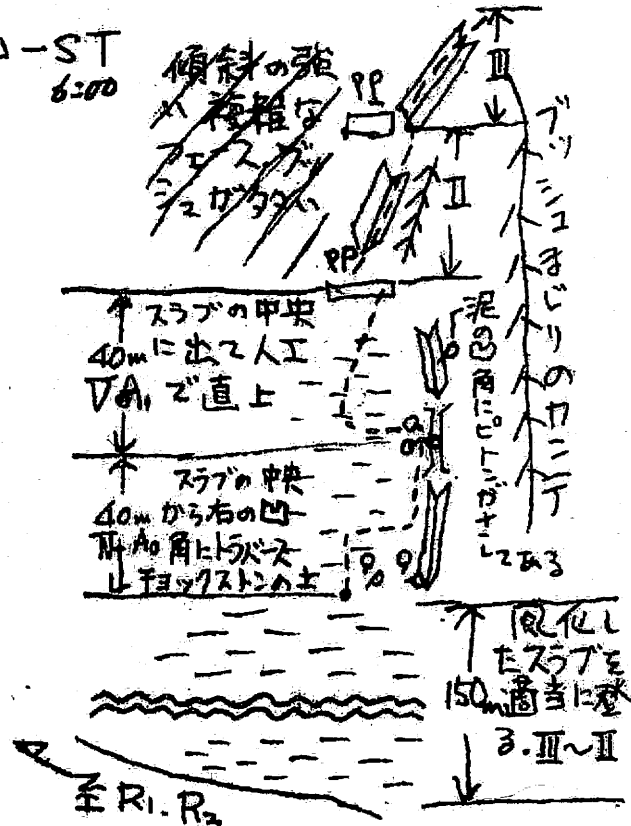
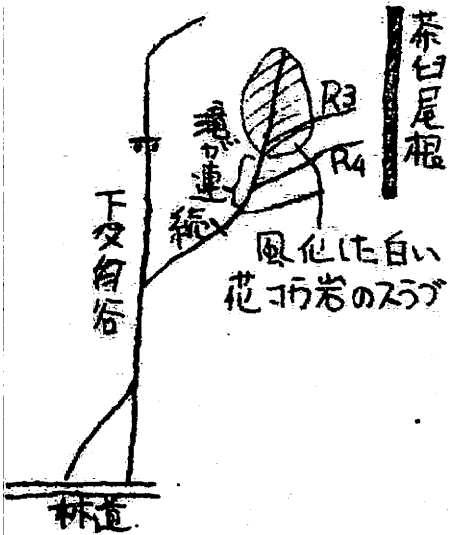


下又白谷下部ルン池群R3登ハン 山本, 岩村, 藤井.

8月15日 ST-明神池-下又白谷出合-下部ルン池群R3
7:00
●/◎ 登ハン(ガヤルヒツチ4ヒツチ)-ホルト下降(アアサレン6p)

-往路下山-ST
6:00

概念図及ビルト図



(感想)

まあ、なんというか、ガウガウの岩やったね。風化がほげい
から、ヒツチやホルトのききがあまく、2本もホルトを引返
いていもうた。取付までモくんどして、ヤブコぎと、俺の
高巻きに着帯した。もう二度と行きたくないよあんた所
(山本談)

あー オ×コ オ×コ (岩村談) ヒツヒツヒ (藤井談)